市学校教育実践努力點

学力やしつけの向上など
全分野貫く五項目
適性を見出し進路指導の徹底

新潟市教育委員会では昨年定めた新潟市学校教育実践上の努力について、その実績結果を慎重に反省、更に新に加味の上、金津地区小合地区の実情を参案して①基本学力の充実、②社会性の指導、③健康生活の向上、④進路指導の徹底、③幼・小・中・高校の連携強化の五項目を、昭和三十年度の学校教育指導の全分野を貫く、実践上の努力点と定め、これを基本として、これに各学校が、その校の実情に即して、これの徹底に努め、教育効果を挙げるよう要望した。

なお以下はその努力点について、のあるまでもなくあるが、云うまでもなく、学校教育が学校だけに孤立する教育であっては、到底その効果は期し得ないので、PTAは勿論地域一般の深い理解と協力が切望されている。

(1)戦後、児童生徒の学力が低下したとの世論がやかましく、学力とは何ぞやとの、本質的な議論も活潑に行われているが、当市各学校でも早くから、この問題をとりあげ、先ず、「児童生徒の実態を掴むことこそ、その欠陥の生ずるもとを究め、或は個人指導、グループ指導、能力差に応ずる指導、児童生徒の発達に伴う指導方法などこれに対する諸施策に種々考えを加えたんだんと成果をおさめているが、このような努力を更に徹底したい。

(2)道義が低下したとか、非本力を向上させるために、児童生徒の向上を図ることは、共同、自作する学習を通じての学力向上も期待されるところである。

(2)道義が低下したとか、非本力を向上させるために、児童生徒の向上を図ることは、共同、自作する学習を通じての学力向上も期待されるところである。

(3)健康生活の向上、学力の充実が先決問題として考えられるのは、特にこの点に配慮した、教材教具の基準を定め、学校の教育環境の整備に当っては、各学校でも、教職員又は児童生徒の教育目作による、適切な教具を用意することが必要で、これのために、教材教具